



あらき・あつみ●日産自動車勤務を経て、アラン (現在のベルトラ) 創業。 18年1月から現職。マーケティングとITビジネス のスペシャ日大会。IT界の 取使し、活性化を目指す 一字業家。

データか直感か

感で生きているといえば変人扱いされるのが落ちだ。では直感とは何だろうか。NHKがそんな番組を放送していた。脳の中心部に人間が普段意識せずにデータを格納している部分があり、人がリラックスした状態になると無意識に鍵となる重要データを出してくれる。それを直感というのだそうだ。なんのことはない。結局、直感=データによる判断だったのかとやや拍子抜けしてしまった。

別の日にクリント・イーストウッド主演の映画 を見たのだが、偶然にもこれまたデータと直感を テーマにしていた。長年プロ野球の新人選手の スカウト業務をしていた老人役の主人公が、デー タより直感で期待の新人かどうかをずばり見抜く という話だが、それも最後の鍵はデータであった (ただし一般的にはデータにされない打球音だっ たが)。

つまり、直感とはいうものの、なんらかのデータを基にした判断であり、それを表立ってデータといわないだけで、人は物事を判断する際、必ずなんらかのデータに基づいているのだ。データを見て最終的にどう判断するか、そこで人それぞれに違う決断をする。いい例が株式売買だ。同じ値段なのに売りたいと思う人と買いたいと思う人がいる。それで初めて取引が成立。互いの判断が違うことが双方ともに都合がよい。

さて、いまはまだコロナ禍の真っ只中。収束 するもしないも概ねワクチン次第という状況だが、 変異種のさらなる発生も気になる不安材料だ。 とはいえ、一気に収まらないとしても収束の方向 に向かう可能性は十分にある。ここで問題とな るのが、何のデータを使い、どう経営判断をす べきかである。

メディアが連日発表する感染者数はほぼ使い ものにならない。全体の検査数や人口比での数値、 つまり分母となるべきデータが抜け落ちているからだ。そんな絶対値には意味がない。人口に対する感染率やワクチン摂取率、変異種発生頻度とその世界への拡散スピード、こちらの方がよほど判断材料として使える。

日本はこれらの指標の把握も、実際の行動指標データであるワクチン摂取率等でも、まだまだ欧米諸国に大きく遅れている。感染率が諸外国より低いことだけは幸運だったが、その理由はファクターX(祖先から受け継いだ独自の免疫機能等)が影響した可能性もあるので手放しには喜べない。日本人は積極的かつ先取的行動がどうも苦手なようである。

一方でワクチン摂取は人それぞれの判断があってよく、違う結果が出ても自己責任として受け止めればよい。人が進歩したのは、良い判断をしたからではなく、個々に判断をし、違う結果を得て、間違えたと思ったらすぐに判断と行動を変えてきたからだ。決断から逃げて何も実行しないのは、それが政府であれ、会社であれ、個人であれ、最低の行動だといえる。

自分自身、ずっと続けているルールがある。 それは性善説だ。時々やめようかとも思うが、 まずは信じてみないことには始まらないので、明 確に悪意や邪念が見える人以外は、まず信じて からその結果を見ることにしている。これまでの データでは、残念ながら双方とも良い関係になれ るのはだいたい5%前後という結果だ。

「義を見てせざるは勇無きなり」と孔子は言った。人の欲望が義かどうかは別にして、私は「人を見て任せざるは勇無きなり」と置き換えている。相手だけではなく、自分の向上も重要な鍵である。さすれば成功率は10%程度にアップできるかもしれない。これが目下の目標だ。データは積み上げるたびに精度が上がる。精進あるのみだ。

(次回は7月26日号に掲載します)

TRAVEL JOURNAL 2021.6.28